

大津の山間部の古民家、親子で生活体験

大津市の山間部にある葛川細川町の古民家の再生に、子育てを支援するNPO法人「子どもネットワークセンター天気村」(草津市)が取り組んでいる。古民家を改修し、今年4月から親子で昔ながらの暮らしや自然を体験できる拠点として活用を



始めている。古民家は築150年のかやぶきの建物。旧鯖街道沿いの元宿屋で、山々に囲まれ、近くを清流が流れる。天気村は4年前に古民家を取得し、「Zutto(ずっと)」と名付けて手入れをしてきた。スタッフらが土堀づくりや屋根の色塗りなどを行い、子どもたちと一緒に河原から石を運んで土間に敷いた。五右衛門風呂もつくる予定だ。Zuttoには大津市や草津市などの都市部に住む親子が訪れ、かまどでの炊飯やぞうきんがけなどを体験している。地域を散策して自然に触れ合ったり、まき割りや野菜づくりにも挑戦できる。天気村の山田貴子代表理事(54)は「便利な都会の暮らしと違い、昔ながらの暮らしは手間がかかる分、知恵や工夫がはぐくまれる。山や川があり、動物もいて、自然のことを考えるには絶好の場所」と話す。4歳と1歳の子どもと体験活動に参加した綾牧生さん(32)＝草津市野路町＝は「子どもが自然の中で、のびのびとでき、親自身も開放的でおおらかな気分になれる」と語る。毎週土曜日はカフェとして運営している。山田さんは「都会と地域の人との橋渡しもできれば、自然体験や伝統の食文化を発信する市民団体にも参加してもらい、活動を広げたい」と夢を膨らませている。

[\[記事全文\]](#)